



共同声明
第 10 回執行委員会
アメリカ合衆国ワシントン DC
2019 年 11 月 13 日

2019 年 11 月 13 日、アメリカ合衆国ワシントン DC において、IFNEC（国際原子力エネルギー協力フレームワーク）執行委員会が開催された。19 か国のメンバー国、2 か国のオブザーバー国、国際機関 4 機関の参加を得て、過去の活動成果、今後の IFNEC の活動及び方向性について論じた。

執行委員会は、アメリカ合衆国の IFNEC 関係会合の開催の労に深甚なる謝意を表した。開催された会合は、執行委員会、運営グループ会合、燃料供給サービス作業部会会合及び「SMR と先進原子技術を世界に」をテーマとしたグローバル・ミニステリアル・カンファランスの会合である。グローバル・ミニステリアル・カンファランスは、260 人以上の参加者を得て、ホワイトハウスでの特別セッションも開催された。カンファランスの焦点は、革新的技術を市場にもたらすことの重要性及び国家が如何にこれら技術を開発し、実証し、そして配置するかにあった。

執行委員会は、原子力が、気候問題に応えるクリーンで豊富なエネルギー源として、安全で核セキュリティを確保しつつ、電力・非電力の両分野において、世界に貢献しているということを再確認した。執行委員会は、IFNEC が次の課題に重要な働きをすることにも留意している。

- 新規プロジェクトに対するファイナンス費用効果、競争の増す世界市場への投資
- 強固な安全文化の維持
- 原子力関係規則の強固な独立性
- 各種手段を講じた公衆意識の向上及びステークホルダー関与の維持
- 地域・国際協力に対する法規制及び地政学的障壁の低減
- 核燃料サイクルのバックエンド管理に係るコスト問題の探求

執行委員会は、IFNEC メンバーがこれら 5 つの課題について、運営グループがビジョンと戦略を構築することを求める。運営グループは、次回執行委員会において、ビジョンと戦略に基づいた成果を報告することとする。

執行委員会は、燃料供給サービス作業部会の多国間処理に係るファイナンス問題の活動成果を認め、またワシントン DC で開催されたメガプロジェクトに関するリスクマネジメントの洞察に満ちたパネル討議の成果について、その労を多とする。執行委員会は、同作業部会の共同議長、トマス・ザガー氏（スロベニア）及びシーン・タイソン氏（米国）の努力を特に謝する。今後とも、同部会が核燃料サイクルのバックエンドに係る問題の活動に傾注することを奨励する。

執行委員会は、基盤整備作業部会が、原子力関係の協力で重要となる輸出管理について、今年6月中国国家能源局主催の北京会合等において行った活動、また、同じく9月にポーランドのエネルギー省主催のワルシャワで行った非電力利用に関するワークショップを称賛する。執行委員会は、同部会の共同議長であるズビグニュー・クバキ氏（ポーランド）及びアレックス・バーカート氏（米国）の献身に深甚なる謝意を表する。バーカート氏は、共同議長辞任にあたり、数年にわたって卓越したリーダーシップを発揮した。執行委員会は、また、ケネス・M・ゴフ氏を同部会の新しい共同議長として歓迎する。執行委員会は、基盤整備作業部会が、開発銀行及び融資機関と協力して原子力関連プロジェクトのファイナンスに関する課題に取り組み、運営グループの活動に資することを推奨する。

執行委員会は、需給関係国作業部会の原子力安全推進に資するベストプラクティスを重視した活動の労を多とする。同作業部会は、2019年6月北京での会合を成功裏に導いた。執行委員会は、ラファエル・グロッシ大使（アルゼンチン）及び佐藤文一氏（日本）のリーダーシップに感謝する。グロッシ大使のIAEA事務総長就任を祝するとともにIFNECの諸活動に対する謝意を表する。執行委員会は、新しい同作業部会の共同議長として、ファクンド・デルチ氏（アルゼンチン）、十時憲司氏（日本）、更に第3の共同議長としてシーリーシーシャン氏（中国）の就任を歓迎する。同作業部会は、同部会の取り扱い分野である原子力関係プロジェクトのファイナンス問題に取り組むことを奨励する。

執行委員会は、フリアン・ガダノ運営グループ議長（アルゼンチン）の過去2年間にわたるリーダーシップに深甚なる謝意を表する。執行委員会は、スザン・ジャワロスキ一氏（米国）の運営グループ議長就任を祝する。

同委員会は、また、以下の現副議長の議長補佐に関する業務を称賛する。

- シーリーシャン・国家能源局原子能司副司長（中国）
- ジュマ・ケニア原子力発電委員会最高経営責任者（ケニア）
- アルチシュク・ロスマトム技術アカデミー副学長（露国）
- ジャワロスキ一・エネルギー省原子力局首席補佐官（米国）

同委員会は、佐藤文一氏（日本）に代わって、十時憲司氏（日本）が副議長に就任し、また、ファクンド・デルチ氏（アルゼンチン）が副議長に就任することを歓迎する。

執行委員会は、OECD/NEA原子力局のIIFNEC事務局として果たした役割に謝るとともに、同事務局長ウィリアム・マグウッド氏及び同スタッフに謝意を表する。同委員会は、また、IFNECが今後共、十分な活動が維持できるよう、メンバー国に対し資金の提供をあらためてお願いする。当委員会は、アンリ・パイレール氏のIFNECに対する長年の貢献に謝意を表する。

執行委員会は、最後に、今後IFNECが取り組むべきビジョンとして、下記の国際機関と連携して、気候変動及びクリーンエネルギーといった喫緊の課題に優先して取り組むということを表明する。

The Nuclear Energy Agency (NEA)、the IAEA (International Atomic Energy Agency)、the World Nuclear Association (WNA)、NICE Future (クリーンエネルギー閣僚会議設立の枠組み)及びthe International Youth Nuclear Congress.

同委員会は、更に、これら目標を達成するために原子力の先進技術が果たす役割に注力することを奨励する。

これらビジョンを前提に、執行委員会は、全メンバー国がそれぞれの見識をもって、2020年ケニアで開催される執行委員会をはじめ、将来の IFNEC 活動に積極的に参加することを推奨する。